

# FA-MAS

Report by Ken Nozawa 図版解説 / 鈴木健太郎

Cover Photo  
French Army  
© WORLD PHOTO PRESS 2024  
※本文中の価格は消費税込みの総額表示です。

## CONTENTS

004 第74回 **サイゴン物語** Saigon Memories  
MACVがいたベトナム戦争「入口から出口まで」[23]

008 **ベトナムを遠く離れて——。**  
悲喜こもごものマリンスナイパー2 文/小倉 徹

032 **LIFEが語るベトナム戦争**  
20世紀アメリカ社会と兵士の顔 文/原克 (早稲田大学教授)

042 **ベトナムで戦った  
オーストラリア軍の兵士たち**  
王立オーストラリア連隊編④

048 **SHARK SHOOTER LIVE-FIRE REPORT!** 特別編 第2回  
アメリカ国内メジャー・マッチ参戦までの道  
～キャリア・オブティックへの挑戦。ダット・サイトの使い方をマスターする～  
Report by Muneki Samejima

056 **ウエスタンアームズ新製品リポート**  
Report by SHOTGUN MARCY  
●ナイトホーク・カスタム プロフェッショナル

060 **タナカ・ワークス新製品リポート**  
Report by SHOTGUN MARCY  
●SIG P226 レールド・フレーム エボリューション2  
ウォーム・シルバー・コーティング/オールHW

064 **トイガンニュース**  
ウエスタンアームズ  
●ベレッタM92FS ダイ・ハード ガンブラックVer.  
タナカ・ワークス  
●コルト SAA 2ndジェネレーション  
7-1/2インチ ABSニッケル・フィニッシュ  
マルゼン  
●ワルサーPP ブローバック ブラック

068 **Militaria Roundup!**  
FREE & ECWCSクロージング

075 **東京マルイ**  
第62回全日本模型ホビーショー2024  
東京マルイブース情報



079 **THE グリーンベレー**  
**GREEN BERET**  
GREENBERET MEETING THE 3rd SF-ODA KAI  
第3回ODA会 In 東海 解説 / DJちゅう

084 **ニッポンのちからこぶ** 写真・文 / 菊池雅之  
日独伊の連携再び!?  
ドイツ空軍・イタリア空海軍来日

086 **サバゲ三等兵APS部**  
今年も精密射撃が熱いぞ!  
第32回APSカップ東京本大会参戦記!

### COMBAT FRONT LINE

- 065 俺たちのアイドル「戦え!! ぴっちょり〜な☆」主催  
シューティングマッチ! PS MATCH Vol.1〜AIRSOFT EDITION〜
- 078 今月の中田焦点! ユーロサープラスを手に入れる!  
ベルギー軍実物 フィールドバーカ&ジャケット
- 088 自衛隊装備オンリーサバゲー Japan Force Meeting  
東北 ~Extra Edition~ 開催!
- 092 新作映画情報「動物界」「リトル・ワンダーズ」  
「ランボー トリロジー 4K」

- 090 新製品情報 COMBAT mono
- 091 レアミリタリーテクノロジー
- 093 読者プレゼント & CIC
- 094 バックナンバー
- 095 次号予告&奥付



### ミリタリースポッター

## Sleeping Danger in Plain Sight

On October 3, 2024, an unexploded ordnance (UXO) detonated on the taxiway of Miyazaki Airport, causing the ground to collapse by about one meter. If this UXO dates back to World War II, it means that the threat had lain dormant for nearly 80 years before resurfacing. The photographs illustrate the U.S. military's UXO disposal training. The first photo shows a controlled detonation conducted by the 725th EOD Team of the 441st EOD Battalion, Task Force Troy, and the Iraqi 9th Army Disposal Company near Bassami, Iraq, on July 13, 2010. The second image features a U.S. Marine Corps EOD technician during a standoff munitions disruption exercise at Camp Hansen, Okinawa, on September 23, 2024.

### 今、そこに眠る危機

2024年10月3日に宮崎空港の誘導路で不発弾が爆発し、地面が1メートル陥没するなどの被害をもたらした。この不発弾が第2次世界大戦時のものであるとすれば、約80年近くを経てから、脅威が顕在化したことになる。不発弾処理のための訓練は、各国軍が実施している。2枚の写真は、米軍における不発弾処理訓練の例である。大きな炎を上げている写真は、不発弾の制御爆破をしたもの。爆破処理を担当したのは、米陸軍第441爆発物処理大隊第725爆発物処理チーム(タスクフォース・トロイ)およびイラク陸軍第9爆発物処理部隊所属の兵士たちである。イラクのバッサミ周辺にて、2010年7月13日。その下の写真では、キャンプ・バトラー海兵隊基地所属の爆発物処理(EOD)部隊の軍曹が、不発弾の遠距離処理訓練中である。沖縄県キャンプ・ハンセンにて、2024年9月23日。 Photo/US Army and Photo/USMC





FA-MAS F1を胸前にかけて整列したフランス空軍コマンド部隊の隊員。FA-MASはM16と同じ5.56mm弾を用いるのだが、ここではライフルグレネードを発射する際に使用する空砲用の弾倉が装着されており、実包の発射が出来ない状態になっている。5.56mm弾は20連あるいは30連の弾倉が用いられるのが一般的だが、FA-MASでは独自に25連の弾倉が採用されている。2002年 フランス

ブルパップライフルの時代を  
切り開いた傑作

# FA-MAS

「ブルパップ式」という新しいコンセプトで作られたアサルトライフル、FA-MAS。フランス軍の主力ライフルとして今日も活躍を続けるFA-MASの姿を通して、ブルパップ式の特徴と可能性を探る。

Report by KEN NOZAWA

図版解説 / 鈴木健太郎 Illustration / M.kelly  
Photo / US.ARMY. USMC. USAF. Armee de Terre (FRENCH ARMY). RAMA. darvic. WPP Archive





FA-MAS F1を手に整列したジブチ陸軍の兵士たち。FA-MAS F1はブルパップ式アサルトライフルとして十分な性能を持ちながら25連弾倉など独自の規格が災いしてか世界的に普及することなく、採用国はフランスの植民地だった国が中心となった。F1の使用弾薬はM16A1と同じM193で、当然ながら80年代に入ってから採用された5.56mm NATO弾の使用は想定しておらず、F1、M16A1ともに5.56mm NATO弾の発射自体は可能だが作動が安定しない上に命中精度も大きく低下してしまう。2009年 ジブチ



湾岸戦争におけるフランス外人部隊の兵士。FA-MAS F1を手にした姿がいかに誇らしげである。彼らはこの銃に対して最高の評価を下している訳ではないが、湾岸戦争やルワンダ内戦、ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争など幾つもの戦いをくり抜けてきた事実を見ればFA-MASが命を預けるのに値するライフルであることは間違いない。ただ3点バースト機能を持ちながらなぜ3で割り切れない装弾数にしたのかは未だにはっきりとした答えが出ておらず、愛好家や研究家の多くは「フランスだから」という理由で納得しようと努めている。1992年 サウジアラビア

の統一化は基本だと思うのだが、さすがはフランス革命を起こした国民というべきか“我が道”を貫いている。難破した際の救命ボートから飛び込む、飛び込まないのジョーク話なら笑って聞けるが、戦闘用の武器・弾薬くらいは周りに合わせてもよさそうなものと、日本人でなくても誰でも考えると思うのだが……。そしてこの、軍事同盟の基本を無視するという選択は、恐ろしいことに後にも続く。

1977年にフランス軍はFA-MASを採用したが、そのFA-MAS、5.56mm口径ではあるものの、5.56mm NATO弾は使用できない。5.56mm NATO弾では正常作動が保障されず、薬莖の破断が発生するというのだ。

ここまでくるとフランス人の気質、国民性に疑問を持たざるを得ないが、FA-MASに関する紹介はもう少し後にして、その前にブルパップ仕様の小銃、アサルトライフルに関して再確認しておきたい。

### 銃器開発の目標とは何か？ ブルパップ小銃の長・短所

FA-MASの紹介に入る前に、その最大の特徴でもある“ブルパップ”に関する長・短所を知っておきたい。

ブルパップ仕様のアサルトライフルと聞くと、多くのミリタリーファン、ガンファンはオーストリアのシュタイアーAUG、フランスのFA-MAS、イギリスのL85A1などを思い浮かべると思われる。特にシュタイアーAUGは成功した初のアサルトライフルと評され、その登場から実力の高さを見せている。それに続いた（というか、ほぼ同時）のがFA-MASで、こちらも評価は高かったが、それら二機種よりもずっと早い時期に完成していたブルパップ・アサルトライフルがある。イギリスのEM-2だ。

これはFN FALの記事内でも触れているが、イギリスは第二次世界大戦後、次世代の小銃としてドイツのStG44を参考とした新型銃器を開発した。それまで主力小銃のLee-Enfield No.4 Mk. Iに使用されていた.303ブリティッシュ弾ではなく、後継として.280ブリティッシュ弾を開発し、その弾薬を使用するEM-2を完成させたのだ。

.280ブリティッシュ弾は中間弾薬であり、小口径で軽量の弾丸を使用することから反動を軽減でき、トータル性能を向上させ一定の評価を得たのだが、アメリ

カのゴリ押しでNATO弾薬は7.62×51mm弾に決まり、EM-2の計画は消え、イギリス軍はFN FALを採用することとなった。

EM-2は十分に優れたアサルトライフルであり、ブルパップ仕様という次世代を感じさせる機構はその後の各国の銃器開発に一石を投じたことは間違いない。

時は流れ、オーストリアのシュタイアー・マンリヒャー社がブルパップ方式のアサルトライフルのシュタイアーAUGを開発する。ブルパップ方式とは引金やグリップの後ろに機関部を配置する方式で、銃身長を長く保ちながら全長を短くできるため取り回しの良さが最大の特徴だ。

そして、シュタイアーAUGと同じく1977年に登場したのがFA-MASだ。

ここで改めてブルパップ仕様のアサルトライフルのメリット、長所を見ていくと、銃身長を犠牲にすることなく全長を短縮化できることで、言うまでもなく室内や車輦内といった狭い空間での取り扱いが容易である。銃身長を確保することで高い命中精度を維持しやすい。また、機関部や弾倉を後方に位置するため重心位置は必然的に後退し、長さによる取り回しやすさに加え、重量の面でも左右への射撃が楽

に行なえることになる。さらに重心の位置が後退すると射撃時に銃口は跳ね上がりやすくなるが、それはつまり射手への反動（自由反動）は小さくなり、マズルコントロールがしやすいことも意味する。銃口が跳ね上がりやすいのにマズルコントロールが容易という表現に疑問を持つミリタリーファン、ガンファンもいると思われるが、それはフロント部分が軽いほど、重心が後方にあるほど、銃口を素早く上下・左右へ触れるといった意味になる。

対してデメリット、短所を見ると、その仕様上エジェクションポートが後方に位置するため、射撃時の発射音が大きく響き、体感振動（衝撃）も一般的なライフルよりも増すとされている。また、エジェクションポートは左右のどちらかを選べるものの、仮に右側を選べど、銃を左肩に合わせてスイッチ射撃が行なえないことになる。左肩に合わせるとエジェクションポート付近に左頬が当たるため射撃が行なえないのだ。もちろん腰だめでの射撃は可能だが、アサルトライフルが得意とする交戦距離は300m前後であり、腰だめでの射撃は意味を持たない。有効な使い方、射撃とならないのだ。実戦の場では右利

きの射手が遮蔽物の左側から攻撃するため、この左右へのスイッチ射撃が行なえない、必要な射撃姿勢が取れないといった短所は致命的ともいえる。

ここで射撃というかトリガーブルの感触だが、重くキレが悪くなることが多い。それは引金と機関部、ハンマーとの距離が遠くなるため、間に入る部品が大きくなるため発生する現象だ。それともうひとつ、エジェクションポートが後方に位置すると射撃時の火薬の燃えカス、ガスの吹き返しが射手の顔に掛かりやすくなる。それが目に入ると痛みで目を開けられなくなることもあるのだ。セミオート射撃では問題になりにくいのが、フルオート射撃では連続的に排莖が行なわれることで銃身内のガスがエジェクションポートへ向かって吸い出されるため、ガスの逆流が発生する。その現象は銃身の長い小銃やサウンドサプレッサー付きのサブマシンガンなどで起こりやすく、特殊部隊に人気のMP5シリーズにおいて、サウンドサプレッサーを付けてのフルオート射撃でしばしば見られる。そのため射手にとってシューティンググラスは必須となる。

それとこれは短所とは言い切れないが、マガジンの挿入口も当然ながらグリップ後方に位置するため、交換に手間取るとい声がある。ただしこれは慣れの問題という声も少なくない。

ブルパップ仕様のアサルトライフルの長・短所を見ていくと、いや、これはアサルトライフルに限った話ではないが、使用目的、目標が明確であるならば適した銃器を選択することの意味も意義もあるが、広く一般的にブルパップ仕様はマイナス部分が多いという判断になる。それを証明するかのように世界各国が採用している小銃を見ていくとブルパップ仕様は極めて少数派である。

そういった事実はフランス軍でも認知していたことだが、それでもなおFA-MASを採用した。つまりはフランス軍にとって、短所には目を瞑り、長所を優先したかった理由、事情があったと考えられる。それがどういった理由、事情であったのかはともかく、FA-MASの基本性能は決して低くはなく採用自体は間違いではない。フランス軍がFA-MASを採用した件に関する考察は後に回すとして、ここではひとまずFA-MAS本体の紹介に移りたい。



# ベトナムで戦った オーストラリア軍の兵士たち 王立オーストラリア連隊編④

ベトナム戦争におけるオーストラリア軍の活動を取り上げるシリーズ、  
今回は4RARの略称を持つ王立オーストラリア連隊第4大隊です。

文／鈴木健太郎 写真／AUSTRALIAN WAR MEMORIAL, WPPアーカイブ



スカレットが背景にあしらわれた4RARの紋章。4RARは「THE FIGHTING FOURTH」という愛称があり、1997年にコマンド大隊に改編された後、2009年には第2コマンド連隊として独立した。ベトナムで戦った4RARにはニュージーランド軍の2個中隊が付属しており、4RAR/NZという略称があった。



解放戦線から押収したDP-28軽機関銃を操る4RARの兵士。DP-28は1928年にソ連軍の制式となって以来、スペイン内戦、第二次世界大戦、朝鮮戦争で大量に用いられ、ベトナムでも良く見かける兵器の一つだった。ネックカバー代わりにカムフラージュネットを巻いた兵士は腰にラベリンググローブを下けているが、このロープは崖の昇降だけでなく渡河を行う際にも役立つため、多くの兵士がベルトやサスペンダーにくくり付けて携行した。



(上) 中国製AK-47を手にした4RARの兵士。隣りで興味深げに覗き混んでいるのはフィリップ・リンチ陸軍大臣である。手前のテーブルにはM1あるいはM2カービンが置かれ、左端にはDShK重機関銃の銃口が見えている。(上右) ベースキャンプに立てられていた4RAR/NZの看板。オーストラリア軍とニュージーランド軍は第一次世界大戦でも混成部隊として戦った経緯を持ち、当時の呼称であるANZAC (Australian and New Zealand Army Corps) の略をベトナムでも用いていた。看板には向かって左にオーストラリア連隊、右にはニュージーランド連隊の紋章が描かれ、それにならうように双方の兵士が看板を支えている。(下) 4RARの部隊長レオン・グレビル中佐からニュージーランド連隊の旗を贈られるニュージーランド軍部隊の部隊長。ニュージーランド軍将兵は紋章のモチーフにもなっている「キウイ」の名で呼ばれ、軍装はオーストラリア軍とほぼ同じでありながらフォーマルな場面ではつばの長いスローハットではなくベレー帽を着用した。(右) 任務を終えて帰還した4RARの兵士たち。M113装甲兵員輸送車の乗員が被っているのはオーストラリア軍機甲部隊のシンボルである黒いベレー帽で、ニュージーランド軍所属を示すものではない。L1A1ライフルの薬室を空にしている中央の兵士がM16用と思われる二脚を取り付けているのが非常に興味深い。



(左) ベースキャンプの鉄条網を設営する4RARの兵士。トラウザーズのベルトループをボタンで留める手法はイギリス軍をルーツとし、オーストラリア軍がこの地での戦いで新たに採用した戦闘服、ピクシースーツのトラウザーズにも取り入れられている。(右) 水筒を土嚢に詰めている4RARの兵士。この作業はヘリやトラックへの積み下ろしをスムーズにするためのもので、水を詰めた水筒を敵地で兵士が飲み終えた空の水筒と交換することで兵士を不衛生な水から守るという目的もあった。





かつては、競技においてダット・サイトを搭載できる部門はレースガンを使用するオープン部門だけだった。ダット・サイトはレースガンをF1のレーシングカーの様な特別なモノへ魅せるものだった。派手なデバイスを嫌う人からは「スペース・ガン」と揶揄されたりもしたものだ。現在では、日常生活で使用するEDC用の銃でも小型ダット・サイトを搭載する時代だ。



## 第2回 アメリカ国内 メジャー・マッチ参戦までの道

～キャリア・オブティックへの挑戦。ダット・サイトの使い方をマスターする～

2011年に単身渡米し、様々なシューティング・マッチへ参戦し、実銃射撃世界を目指してチャレンジを続けている鮫島宗貴氏。本誌2024年10月号からスタートした、アメリカ国内メジャー・マッチ参戦までの道のりを、鮫島氏の経験からリアルに語ってもらう「特別編」。連載2回目となる今回は、メジャー・マッチに向けての準備／練習内容を紹介しつつ、ここ数年で起こったUSPSAの変貌が鮫島氏のトレーニング内容にいかなる影響を与えたのかも紹介。2024年現在、鮫島氏の置かれている状況が明らかになる――。

### USPSAの変貌

この3～4年の間、USPSAは大きく変わってきている。最も露骨なのは、部門数の増加と各部門の参加人数の割合の変化だ。ダット・サイトをスライド上部に直接搭載した銃を使用することがルールで定められた部門であるキャリア・オブティック部門（以下、CO部門）が著しく参加者の数を伸ばしている。試合によって状況は異なるが、大抵の場合、実に30%前後の参加者がCO部門とい

うのが現在のUSPSAの形だ。そして、これに加えてUSPSAは昨年からはリミテッド・オブティック部門（以下、LO部門）と呼ばれる新しい部門を制定した。現段階では、プロヴィジョナル（仮）部門という形だが、来年には正式に部門として成立するだろう。CO部門は、スライド上部へ直接ダット・サイトを搭載することがルールで求められるが、使用できる銃は初弾がダブル・アクションもしくは、グロック等のセーフ・アクションに限られる。また、細かい点で

は、マグウェルの使用が禁止されている。つまり、フル・カスタムの1911/2011系の銃は使用が出来ない。そこで、このLO部門が設立されることとなった。但し、この部門の制定にはまだ議論の余地が多く残されている。CO部門とLO部門の差がとても小さいのだ。つまり、CO部門で使用できる銃はそのままLO部門で使用することにルール上は全く問題がない。フル・カスタムの1911/2011系の銃を使用可能にする為だけに新たに部門を作るのは、部門同士で参

加者を取り合うだけだ。“CO部門を廃止してLO部門とすれば良いじゃないか！”という意見も多い。しかし、そのやり方だと、LO部門において初弾がダブル・アクションやセーフ・アクションの銃を使用する人が少なくなり、オープン部門やリミテッド部門と同じように1911/2011系が圧倒的なシェアとなってしまふ。これだと、1911/2011系を製造しないメーカーからのスポンサーを得ることが難しくなる。この問題を解決する為に、過去にはプロダクション

部門が設立され、初弾がダブル・アクション、セーフ・アクションのみというレギュレーションの概念が生まれたのだ。いずれにしても、今のUSPSAでは以前に比べて安く、簡単に競技を始めることが出来る状況となったため、参加者が増加している。確かに、新規参加者を増やすことを目的として、USPSA会員からの要望をアンケート形式で聞き、いたずらにルールの改定や部門を制定するのは、一見すると民主的でアメリカ的だと思う。しかし、会員にな





**WESTERN  
ARMS**

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY  
@ウエスタン アームズ 03-3407-5922  
<http://www.wa-gunnet.co.jp>

# NIGHTHAWK CUSTOM PROFESSIONAL

※撮影用のモデルはプロトタイプのため、  
量産品とは仕様が異なる場合があります。



NIGHTHAWK  
CUSTOM





**TANAKA  
WORKS**

# SIG P226 MODEL GUN

## Railed Frame Evolution.2

### “Warm Silver Coating”

### ALL Heavy Weight

●Photos & Text by  
SHOTGUN MARCY  
@タナカ・ワークス  
<https://www.tanaka-works.com>

※撮影用のモデルはプロトタイプのため、  
量産品とは仕様が異なる場合があります。







# Militaria Roundup!

## FREE & ECWCSクロージング

戦史における冬季の戦いは多くのエピソードを残しているが、その中でしばしば言及されるのが兵士の防寒服だ。これまでに様々な防寒服が開発されたが、現在の主流は「レイヤーリング」と呼ばれる「重ね着」システムだ。今回は現在アメリカ陸軍が使用している防寒被服システム“FREE”と“ECWCS”を構成するアイテムをいくつか紹介していこう。

解説/菊月俊之 写真/青木健格 撮影協力/MASH ☎06-6567-3312 <http://www.mash-japan.co.jp>、中田商店 ☎03-3823-8577 <https://www.nakatashoten.com>

### FREE / 耐火性環境アンサンブル

米陸軍問題FREE (Fire Resistant Environmental Ensemble/耐火性環境アンサンブル) は、航空機および戦闘車輛搭乗員用のマルチレイヤー (多層式) システムで、名前の“アンサンブル”は「組み合わせ」の意味。突発的炎災と極寒環境での保護を目的として開発されており、素材はノーメックス46%、コットン41%、ナイロン10%、その他3%の混紡生地を使用している。

FREEシステムは、多様な任務の要件や環境条件に適応したもので、レイヤーは対応温度で①アンダーレイヤー②ベース (-51~15°C) ③ミッドウェイト (-51~15°C) ④勤務服 (Duty Uniform) ⑤LWOL (Light Weight Outer Layer/ 軽装レイヤー / -18~15°C) ⑥IWOL (Intermediate~/ 中間装備~/ -51~18°C) ⑦EWOL (Extreme~/ 極寒装備~/ -51~4°C) の7段階 (内訳は下の別表参照)。ちなみに④は航空兵と戦闘車輛搭乗員用ユニフォームで、FREEシステムのアイテムではない。アウター・レイヤーは⑤⑥がジャケットとトラウザーズ、⑦がパーカ、ライナーとトラウザーズで構成。これに補助アイテムとして防寒用手袋、リガーベルト、ウールソックスが加わる。



#### FERR 構成アイテム

アンダーレイヤー	半袖シャツ、ボクサーブリーフ、ドロワーズ (下履き)
ベース・レイヤー	長袖シャツ、ドロワーズ
ミッドウェイト・レイヤー	長袖シャツ、ドロワーズ
デューティー・ユニフォーム	A2CUエアクルー・ユニフォーム、CVCカバーオール
LWOL (軽装)	ジャケット、トラウザーズ
IWOL (中間)	ジャケット、トラウザーズ、ベスト
EWOL (極寒)	ジャケット、トラウザーズ、パーカ&ライナー

FREEシステムには航空搭乗員用のA2CUエアクルー・コンバット・ユニフォームまたは戦闘車輛搭乗員用のCVC (Combat Vehicle Crew) ユニフォームをアウター・レイヤーとすることが認められており、外観からFREEシステムを着用しているか判断できないこともある。(Photo:U.S. Army)

### ECWCS / 拡張式寒冷地被服システム

ECWCS (Extended Cold Weather Clothing System/ 拡張式寒冷地被服システム) は気温 4~50°Cの環境下での保護と維持を目的に、アメリカ陸軍ナティック研究所が開発したレイヤーリング (重ね着) 式断熱システムで、1980年代初めに採用されている。ECWCSが採用したレイヤーリング・システムは天候 (気候) や運動量に応じて複数のレイヤーを組み合わせるもので、①着用者を雨風や雪から守る、②保温性を保ち、ウェア内をドライな状態に保つ、③汗を吸収発散させて汗冷えを防ぐのが目的だ。

ECWCSは現在までに第1から第3世代 (ジェネレーション/以下Gen.と略) のバリエーションが存在しており、Gen.1のレイヤーは①下着②ベース③ミドル④アウターから構成され、Gen.2では着用者の意見を受けて構成アイテムを一部改修している。そしてGen.3ではシステムそのものを根本的に見直し、レベル1~7のレイヤーを設定 (内訳はP.73別表参照)。これらを天候 (気候) や気温に応じた組み合わせで着用するクロージング・システムで、2007年にアフガニスタン展開の第72騎兵連隊に最初に支給されている。



ECWCS (“エクワックス”と発音) は1980年代に開発されたレイヤーリング・システムで、採用後もさらに改良を加えられGen.1から3までの3タイプが存在。写真のGen.3は新素材の使用等で機能性は大幅に向上し、旧Gen.より、体積 (スペース) で35%、重量で25%削減されている。

### FREE IWOLジャケット FREE INTERMEDIATE WEATHER OUTER LAYER(IWOL) JACKET

FREEシステムは陸軍の航空機および戦闘車輛搭乗員用ユニフォームで、これ以外に選抜されたMOS (Military Occupational Specialty/職種専門技能) を有する兵士に着用が認められている。ここで紹介するIWOLジャケットは華氏-60~0°F (-51~18°C) の温度域で着用するアウター・レイヤーで、ジャケットとトラウザーズ、そしてベストで構成。これを下着 (Tシャツとボクサー・パンツ) と防弾性繊維ライクラ製のベース・レイヤー、または風を通さないポーラテックフリース製ミッドウェイト・レイヤーのシャツとドロワーズ (下履き) を着た上に着用する。



背面スリット  
ジャケット背面には“パススルー・フラップ (Pass-Through Flap)” が設けられているが、これは負傷した戦闘車輛搭乗員 (CVC) を車内から引き上げるためのエキストラクション (抽出) ・ストラップにアクセスするためのもの。

今回紹介するのはBAF社 (Brooklyn Armed Forces Inc.) が一般向けに製造販売している製品で、裏地にフリースが付くIWOLジャケットを再現。右胸、両裾、左腕上腕、両袖口の計6つのポケットが付く。カムフラージュ・パターンは2010年に採用された現行のOCP (Operational Camouflage Pattern)。サイズはS、M、Lの3種類。(撮影協力: 中田商店/AS-850 BAF 米軍タイプ ソフトシェル 防水エレメントジャケット OCP 2万1800円)

こちらは空軍迷彩ABUのバージョンだが、これはBAFのオリジナル商品。FREEクロージング・システムのカムフラージュは今回紹介のOCPとUCP (ユニバーサル・カムフラージュ・パターン) の2種類が存在するが、UCPは2015年にOCPに切り替えられた。ちなみに空軍のABUカムフラージュも2021年にOCPと完全に交代している。(撮影協力: 中田商店/AS-851 BAF 米軍タイプ ソフトシェル 防水エレメントジャケット ABU 1万9800円)



襟  
襟は立襟だが、これは保護 (Protection) を目的としたもので、裏側にもフリースが張られている。ジャケットの胸にはベルクロ・テープが縫い付けられており、ARMY章 (左胸)、ネーム・テープ (左胸)、階級章 (ネーム・テープの上) を着用する。

#### 肩ポケット

IWOLジャケットには胸と裾の他に左腕上腕にもポケットが設けられている。ポケットにはいずれもスライド・ファスナーが使用されている。ポケットの上に見えるベルクロには部隊章 (SIS) を着用し、右腕側にはアメリカ国旗を着用する。

#### 袖口ポケット

両方の袖口にはフラップ付きの小さいポケットが取り付けられているが、これはペンや小工具を収納するためのもの。



裏地にはフリースが張られ、低温状況下でも良好な保温性を発揮する。裾には保温性を高めるためのドロコード (引き絞リヒモ) が通されており、左右にフィッティング調節用のストッパーが付く。



ラベル  
ラベルには洗濯に関する情報が記されており、漂白剤、洗濯糊、柔軟剤、アイロンは使わない。洗濯機では裏返して水で洗う。タンブル乾燥は弱で行なうか広げて干し、ドライクリーニングは行なわない等の注意事項が。





第62回・全日本模型ホビーショーの出店企業数は約80社！他にも世界規模の大型展示会・イベントが東京ビッグサイトで複数開催された週末だったこともあり、連日大いに賑わった。



**TOKYO MARUI**

# 第62回 全日本模型ホビーショー 東京マルイブース情報

Photo & Text by Takeo Ishii 東京マルイ ☎03-3605-1113 www.tokyo-marui.co.jp 全日本模型ホビーショー https://hobbyshow.co.jp

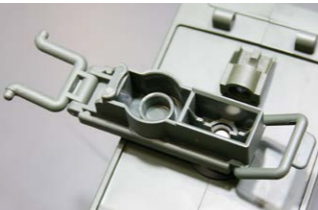
2024年10/11~13の3日間にわたり、東京ビッグサイト[南1、2ホール]にて「第62回 全日本模型ホビーショー2024」が開催された。東京マルイブースでは「カユいところに手が届く♪」「その手があったか!」と思えるユニークな新製品が発表され今回も大きな話題となった。



単3アルカリ電池×4本でパワフルに駆動。使用条件にもよるが電池交換なしで13,000発の給弾が可能だという。イベント用あるいはフィールド等の施設用にAC電源アダプターもあったら便利かも。

Mk 46 (=M249ミニミ) のマガジンとほぼ同サイズのコンパクトボディ。キャリングハンドルを外すとロックが外せ、横蓋が大きく開いてBB弾約1,600発をジャラジャラと流し込める。中央に突き出しているのがスイッチを兼ねた給弾ノズル。

キャリングハンドル裏側が各種アタッチメントになっており、電動ハンドガンとガスブローバックのマガジンに対応している。



電動ハンドガンのマガジンへの給弾デモンストラーション。「9発/秒」の速さで確実に整然とBB弾が送り込まれるのは快感!



## BB AUTO LOADER

待望の東京マルイ純正/電動給弾器「BBオートローダー」が遂に登場！ひととき目立つブースでは耐久性、実用性、そして「東京マルイ製のほぼ全てのエアガンのマガジンに使用可能」だという驚くべき汎用性が紹介されていた。







月刊  
**THE グリーンベレー**  
**GREEN BERET** vol.64  
**GREENBERET MEETING**  
**THE 3rd SF-ODA KAI**  
**第3回ODA会 In 東海**

文/DJちゅう  
 写真/gearbles (gearbles.com)・Zuiko (@SergeantZyco0)・DJちゅう

